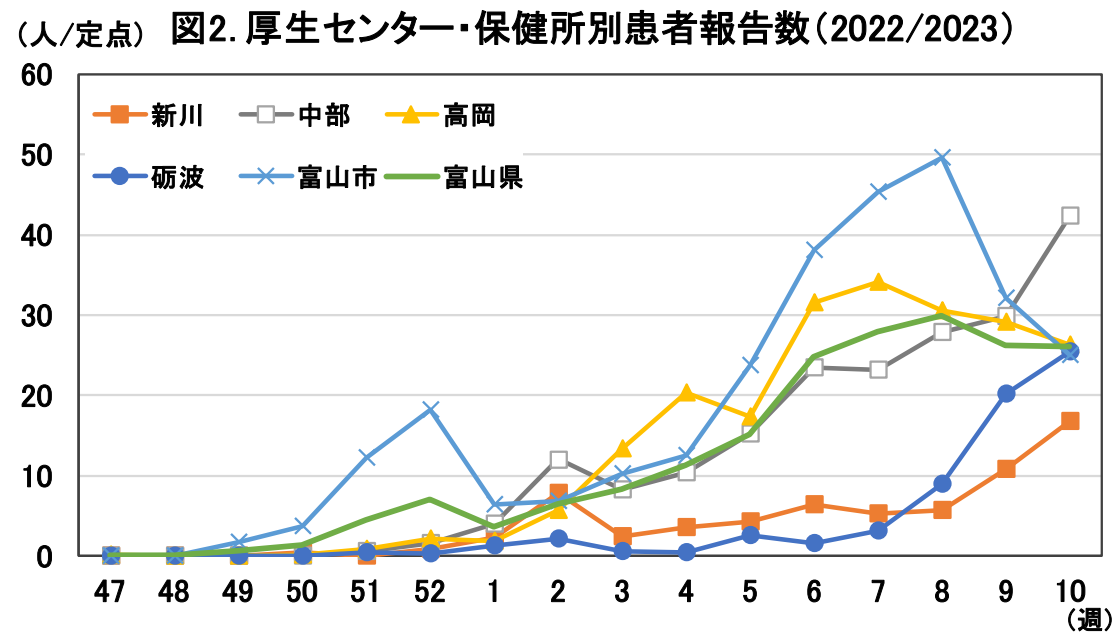
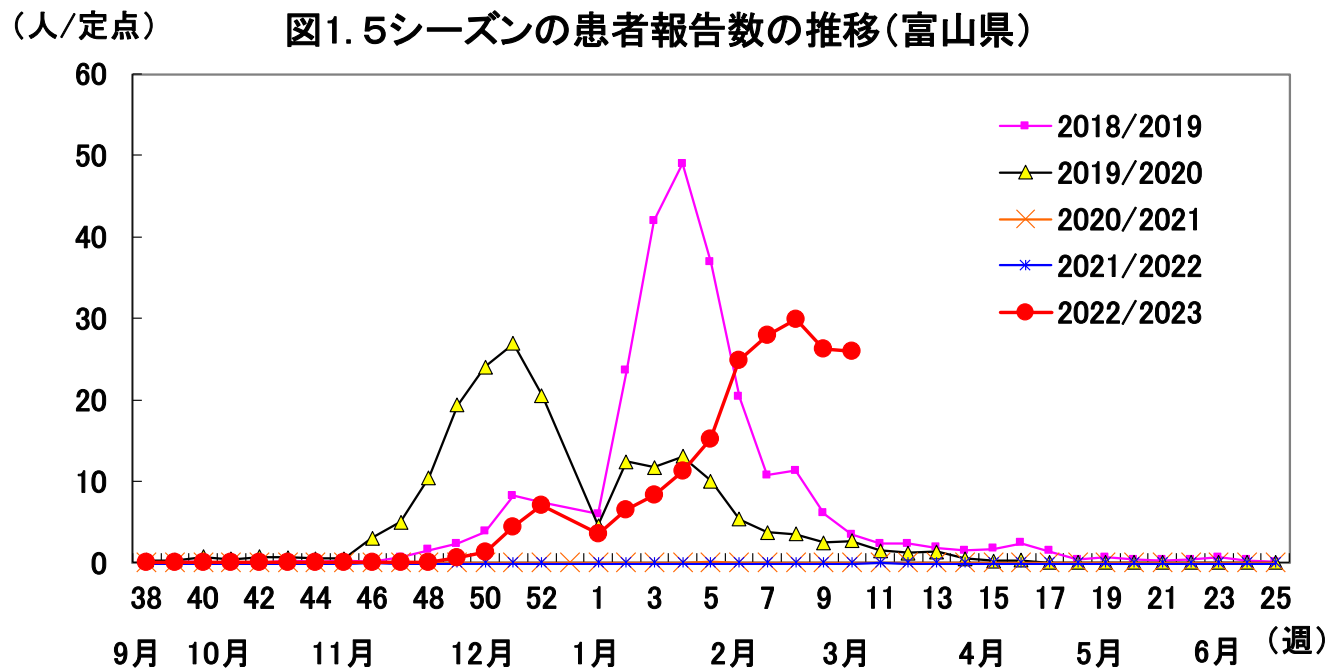


インフルエンザの発生状況(富山県)

【第10週(2023/3/6~3/12) 感染症発生動向調査速報値 (2023/3/15時点)】



- 今週の報告数は26.02人/定点であり、先週 (26.25人/定点) からほぼ横ばいとなった。
- 厚生センター・保健所別に見ると (図2)、富山市管内、高岡管内は減少傾向が続いた。一方、新川、中部、砺波管内では増加傾向が続いている。

※COVID-19流行に伴う受診控えなどの影響により、インフルエンザの流行状況を過小評価している可能性などが考えられ、データの解釈に注意が必要。

図3. 年代別割合(富山県、第10週)

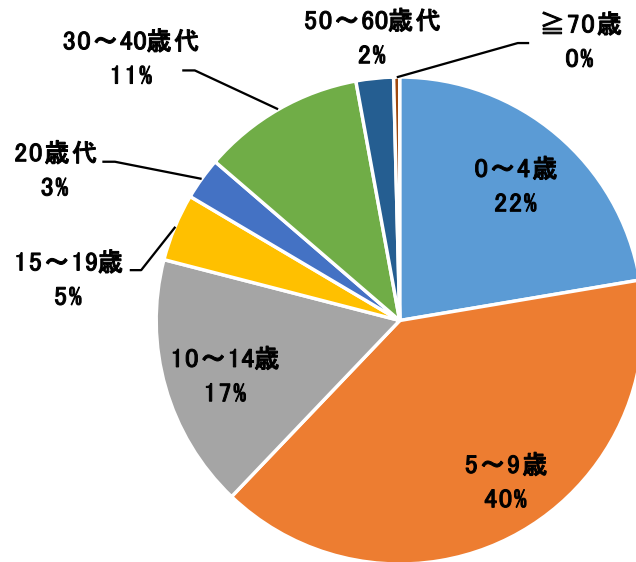
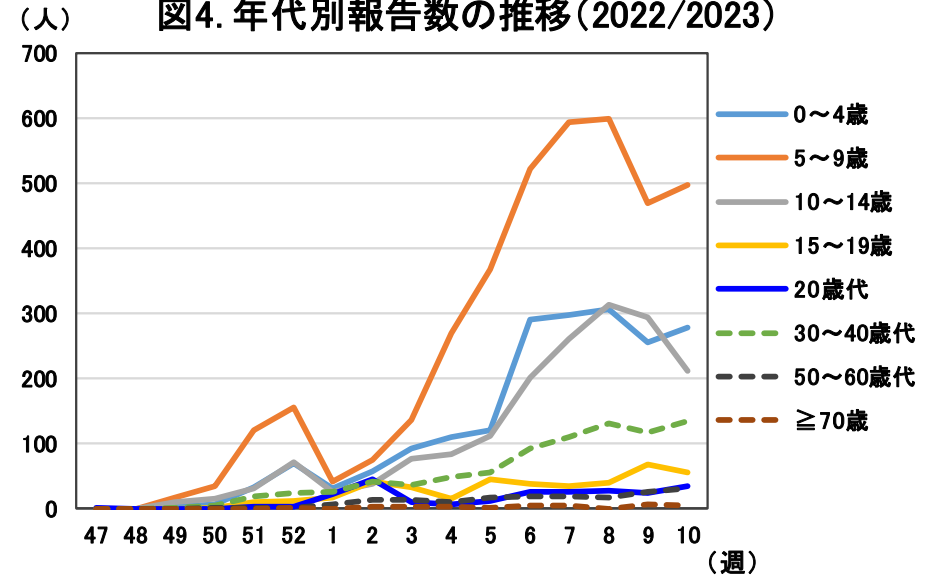


図4. 年代別報告数の推移(2022/2023)



- 富山県の第10週の年代別割合(図3)では、15歳未満の小児が79%を占めた。一方、50歳以上の症例は少ない状況が続いている。
- 年代別報告数の推移(図4)では、先週減少していた0~4歳(水色)、5~9歳(橙色)の報告数が増加に転じた。一方、10~14歳(灰色)は減少が継続した。
- インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は第10週に、小学校11件、中学校4件、その他1件の計16件報告された。報告数は先週(29件)と比べほぼ半減したが、引き続き小学校を中心に感染が継続していると考えられる。

富山県HP : <https://www.pref.toyama.jp/120507/kurashi/kenkou/iryuu/kj00007295.html>

富山県感染症情報センターHP : <https://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/inful/influ2223/influ2223.htm#gakkyuheisa>

図5. 都道府県別インフルエンザ報告状況(第9週)

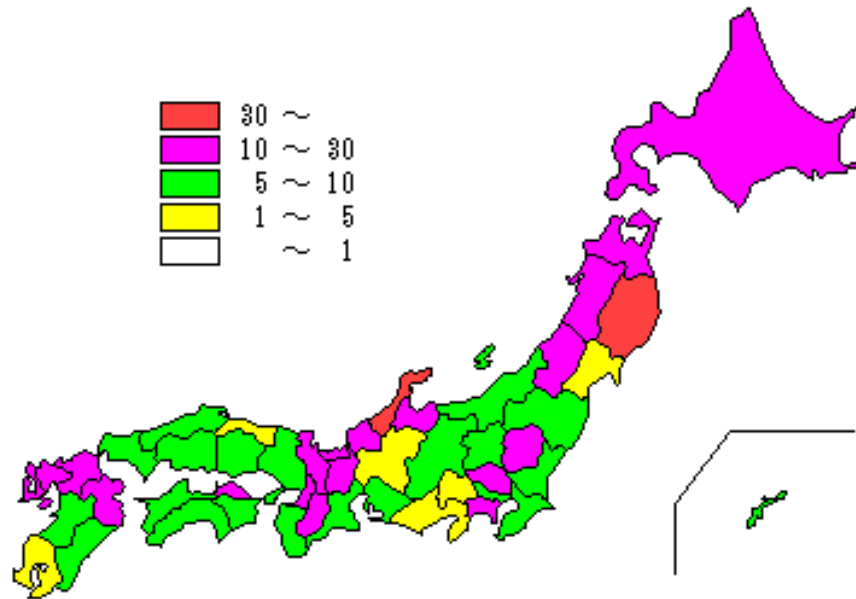
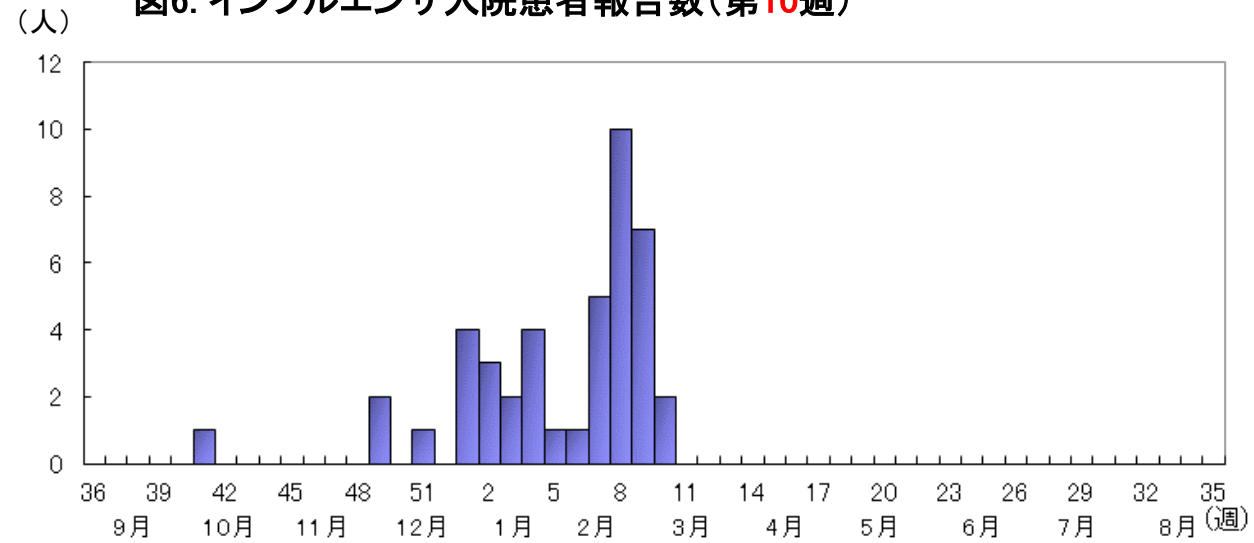


図6. インフルエンザ入院患者報告数(第10週)



- 全国の定点あたり報告数は第9週に10.17人/定点となり、第6週（12.91）をピークに緩やかな減少が継続している。なお、都道府県別（図5）では20道府県で注意報レベルの10人/定点を超えている。また、岩手県、石川県では、警報レベルの30人/定点を超えている。
- 県内5か所の基幹定点医療機関を対象に実施するインフルエンザ入院サーベイランス（図6）では、第10週に2例の報告（幼児2例）があった。